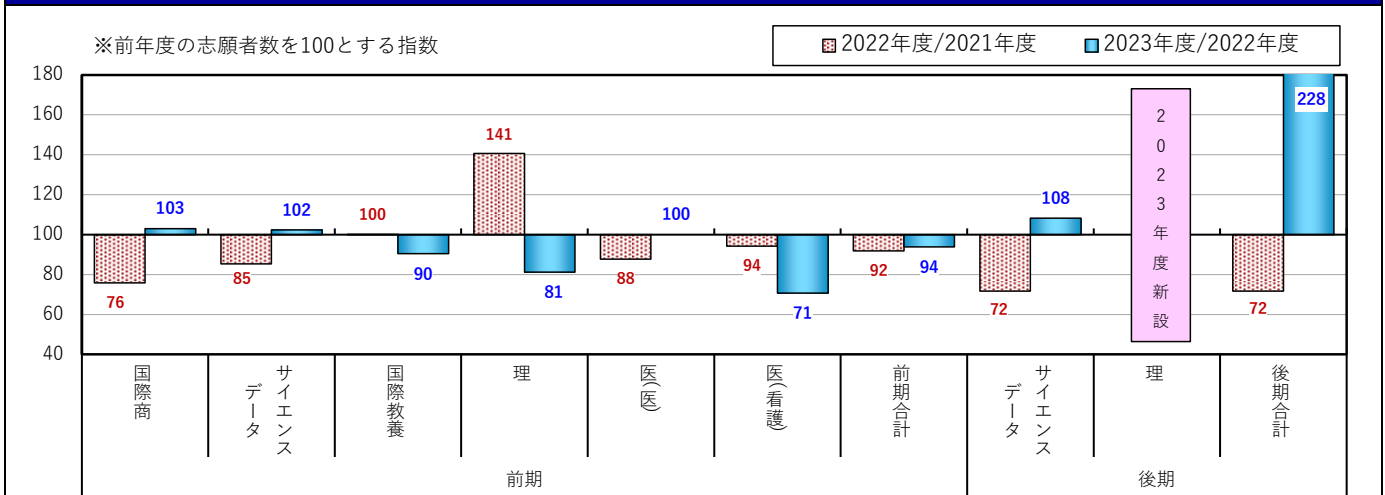


横浜市立大：前期はやや減少、後期は理の新規実施で大幅増加 前期：-125人 後期：+78人



主な入試変更点

2段階選抜実施：理<後>…約10倍
 第1段階選抜基準、実施方法変更：
 医(医) <前>…共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数：210人)
 →共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数：207人)
 ※750点以上の志願者が207人に満たない場合は、志願者全体の共通テストの得点状況等により、750点未満でも合格となる場合がある。

選抜方法：理…後期日程を新規実施
 募集人員：理…<前>(B方式)25人→20人、<後>0人→10人
 医(医)<地域医療枠>…<前>10人→9人
 (看護)…<前>65人→55人

共通テスト：データサイエンス<前>…国<200>+数2<300>+外<500>+(歴公 or 理・理基2)→2<300>=総点<1,300>
 →国<200>+数2<300>+外<300>+(歴公 or 理・理基2)→2<300>=総点<1,100>

理<前>(A方式)…国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<500>=総点<1,200>
 →国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<300>=総点<1,000>
 (B方式)…国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<500>=総点<1,200>
 →数2<400>+理2<300>+外<300>=総点<1,000>

個別試験：データサイエンス<前>…数+総合問題→数+外+総合問題
 理<前>(A方式)…数+理2→数+理2+外
 (B方式)…数+理→数+理2+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は125人(94)のやや減少。募集人員が595人となった2021年度以降では、初めて志願者数が2,000人を下回った。後期は78人(228)の大幅増加だが、既存のデータサイエンス(108)のみでは、5人のみの増加。後期全体では理の新規実施で募集人員が300%増加のため、志願倍率は12.2倍→9.3倍にダウン。

- <前期日程>
- 国際商(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。2019年度の改組の翌年から前年度の反動による増減が継続。志願者数は2年連続600人を下回った。
 - データサイエンス(102)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。
 - 国際教養(90)は、系統への低い人気もあり減少。志願者数は2019年度の改組以降、初めて600人を下回った。
 - 理(81)は、前年度大幅増加の反動に加え、個別試験での科目負担増により大幅減少。募集人員も7%減少だが、それを上回る志願者数減少率で、志願倍率は3.7倍→3.2倍へダウン。
 - 医(医)(100)は、前年度減少の反動はなく志願者数は同じで前年度並。第1段階選抜が実施され、合格率は87.7%だった。
 - 医(看護)(71)は、大幅減少で2年連続減少。募集人員は15%減少だが、それを上回る志願者数減少率で、志願倍率は2.0倍→1.7倍と3年ぶりに2倍を下回った。

- <後期日程>
- データサイエンス(108)は、個別試験は面接のみで、共通テストの成績が合否に大きく影響したことから、共通テストの平均点アップにより、3年ぶりの増加。
 - 新規実施の理は、個別試験は面接のみで、共通テストの成績が合否に大きく影響した。募集人員10人に対し志願者数は73人、志願倍率は7.3倍。